

国内規格コンテナ (JIS Z 1610 : 1997, Z 1611 : 1995, Z 1655 : 1993, Z 1651 : 2008)

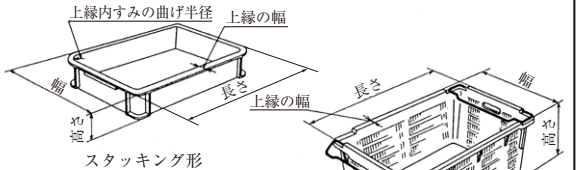
(a) 国内貨物コンテナ (JIS Z 1610 : 1997)

第1表 外のり寸法および最大総質量

寸法による記号	外のり寸法mm			最大総質量 (t)
	長さ (l)	幅 (w)	高さ (h)	
1223	3,658 ⁰ ₋₅ 又は 3,715 ⁰ ₋₅	2,438 ⁰ ₋₅	2,500 ⁰ ₋₅	12,000
2023	6,058 ⁰ ₋₆	2,438 ⁰ ₋₅	2,500 ⁰ ₋₅	24,000
2024			2,591 ⁰ ₋₅	
2033		2,500 ⁰ ₋₅	2,500 ⁰ ₋₅	
2034			2,591 ⁰ ₋₅	
2423	7,396 ⁰ ₋₆	2,438 ⁰ ₋₅	2,500 ⁰ ₋₅	24,000
2424			2,591 ⁰ ₋₅	
2433		2,500 ⁰ ₋₅	2,500 ⁰ ₋₅	
2434			2,591 ⁰ ₋₅	
3023	9,125 ⁰ ₋₁₀	2,438 ⁰ ₋₅	2,500 ⁰ ₋₅	24,000
3024			2,591 ⁰ ₋₅	
3033		2,500 ⁰ ₋₅	2,500 ⁰ ₋₅	
3034			2,591 ⁰ ₋₅	
4024	12,192 ⁰ ₋₁₀	2,438 ⁰ ₋₅	2,591 ⁰ ₋₅	24,000
4034		2,500 ⁰ ₋₅	2,591 ⁰ ₋₅	

第5表 寸法例 単位mm

種類	外のり寸法			上縁の幅	上縁内すみの曲げ半径
	長さ	幅	高さ		
4N-18	660	440	180	23	50
4N-35	660	440	350	23	50
6N-32	550	366	320	20	45
4S-13	660	440	130	20	20
4S-16	660	440	160	20	20
6S-28	550	366	280	18	20



第2図 プラスチック製通い容器

(b) 国内保冷コンテナ (JIS Z 1611 : 1995)

第2表 種類

種類	主な輸送機関
1種 (3段重ね用)	2.5MR 貨物自動車
	2.5R 鉄道車両
	5MR 船舶
2種 (2段重ね用)	2.5R 貨物自動車
	5R 鉄道車両

なお保冷性能により1級、2級の別がある。

第1図 国内保冷コンテナ

(d) フレキシブルコンテナ (JIS Z 1651 : 2008)

織布、樹脂フィルム又は紙のような柔軟な材料で作られた胴部と、つり上げるためのつり部及び注入・排出ができる開口部などを備えた中形容器。直接に内容物と、又は内装袋と接触するように設計し、空袋のときには折り畳めるようになっている。コンテナ容積は3,000L以下とし、最大充てん質量は3,000kg以下とする。

第6表 コンテナの種類及び記号

種類	記号	定義
ランニング I形	RI	下記①
ランニング J形(1種、2種)	RJ1, RJ2	下記②
クロススタンダード形	CST	下記③
クロスシングル形	CSI	下記④

第3表 寸法および標記荷重

種類	1種			2種	
	2.5MR	2.5R	5MR	2.5R	5R
標記荷重 t	2.5	2.5	5	2.5	5
外のり寸法	長さ mm以下	2,330	2,200	3,360	2,300
	幅 mm以下	1,700	1,700	2,300	1,550
	高さ mm以下	2,100	2,100	2,100	2,350
	外容積 m ³	8.32	7.85	16.11	8.38
自重kg以下(参考)	850	850	1,500	850	1,500

(c) プラスチック製通い容器 (JIS Z 1655 : 1993)

第4表 種類

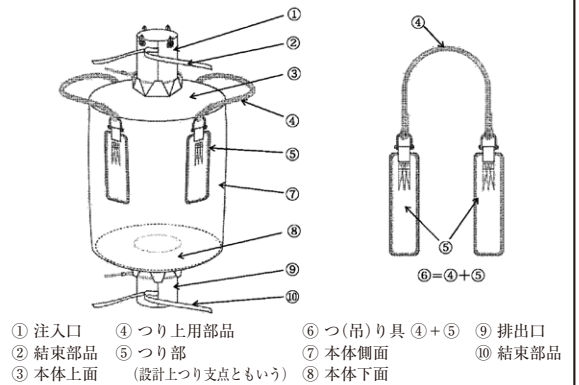
種類及び記号		
種類	形状	記号
ネスティング形	金具式	N
	回転式	T
スタッキング形	一般式	S
	折りたたみ式	C

参考

- 容器の種類には、容器の側面及び底面に網目有りものと、網目無しものがある。
- 種類の最初の数字4は、平パレット(1,100×1,000mm)に1段で4個積付けできる容器、数字6は1段で6個積付けできる容器を示す。
- 種類の記号Nはネスティング形、記号Sはスタッキング形を示す。
- 種類の末尾の2けたの数字は、容器の高さを意味し、数字13は130mm、数字16は160mm、数字18は180mm、数字28は280mm、数字32は320mm、数字35は350mmのものを示す。

定義

- 繰返し充てん・排出が行えるように設計し、修理可能なフレキシブルコンテナで、修理する場合その時点の母材強度と同等の引張り強度を満足するコンテナ。
- 繰返し充てん・排出が行えるように設計し、修理可能なコンテナ。修理する場合、その時点の母材強度と同等の引張り強度を満足するコンテナであるが、材料設計の違いによって、耐候性、防水性にも優れ、修理した場合、それらの性能を保持するように設計したコンテナ。
- 充てん・排出回数を数回又は1年を限度として使用するよう設計されたコンテナ。なお、この分類に該当するコンテナは、破損したものを使用したり、修理してはならない。ただし、取り外し可能な内装袋(内袋)の交換及びベルトなどの部品を交換して使用する場合、修理とはみなさない。
- 充てんは、1回しか行わないことを前提に設計したコンテナ。



第3図 コンテナ各部の名称